

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



小学校で避難生活を送る人々。(2023 年 2 月: コングシ市)

今、やるべきこと

1993 年 12 月、私はプロジェクトの可能性を調査するため、ブルキナファソを訪れていました。初めてのブルキナファソは驚きの連続でした。街々に溢れる活気、伝統的な文化の薫り、人々の優しさと勤勉さーそして私は、あり得ない光景を目にします。

それは、映画館の最終上映が終わった夜 0:00 過ぎ、若い女性が 1 人で夜道を歩いて帰宅する光景でした。当時の近隣諸国の状況からは全く信じ難く、その治安の良さは奇跡的にすら思えました。その後、調査で様々な地方を回り、時には夜間の移動も伴いましたが、ただの一度も身の危険を感じることはありませんでした。

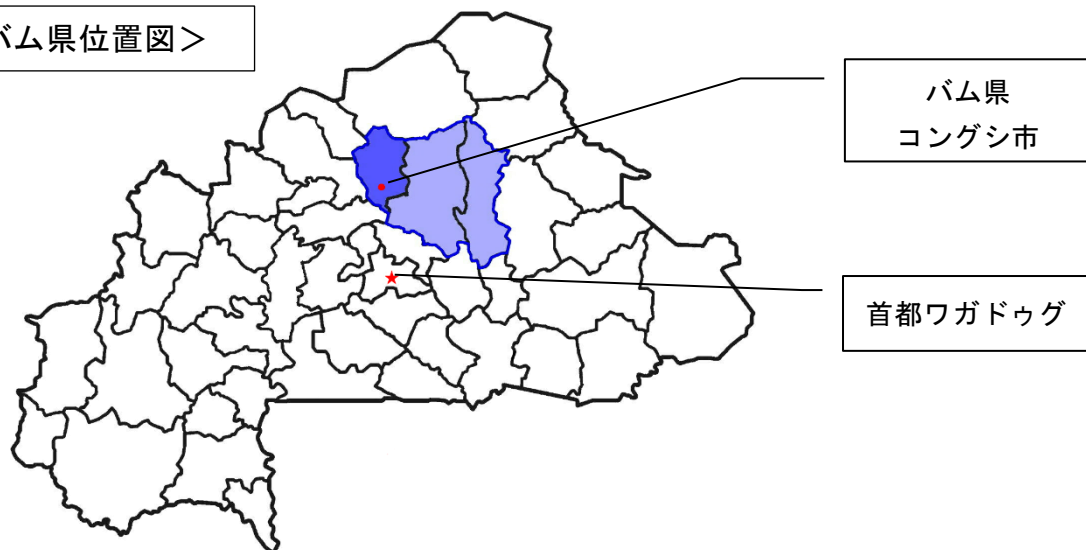
それから 30 年。ブルキナファソは、かつての姿を失いつつあります。武装集団の襲撃によって土地や家屋を失った国内避難民は約 200 万人に及び、45 県中 14 県に非常事態宣言が出されています。政府や軍部も分裂・対立し、昨年だけで 2 度のクーデターが発生しました。国民は食糧や生活物資の不足と高騰で困窮しており、命の危険だけでなく、日々の暮らしや将来への不安に晒されています。

「緑のサヘル」が活動を実施しているコングシ地域でも状況は同様です。隣接地域からは多数の避難民が流入しつつあり、村々の住民も村落部から市部へと移動を始めています。現地協力団体の行動範囲も次第に限られ、もはや以前のように気軽に村々や学校を訪れることは出来ません。しかし、私たちの助けを必要としている人々は、確実にそこにいます。今、私たちに出来ることは何なのか、やるべきことは何なのか、慎重に見極めて行きたいと思います。

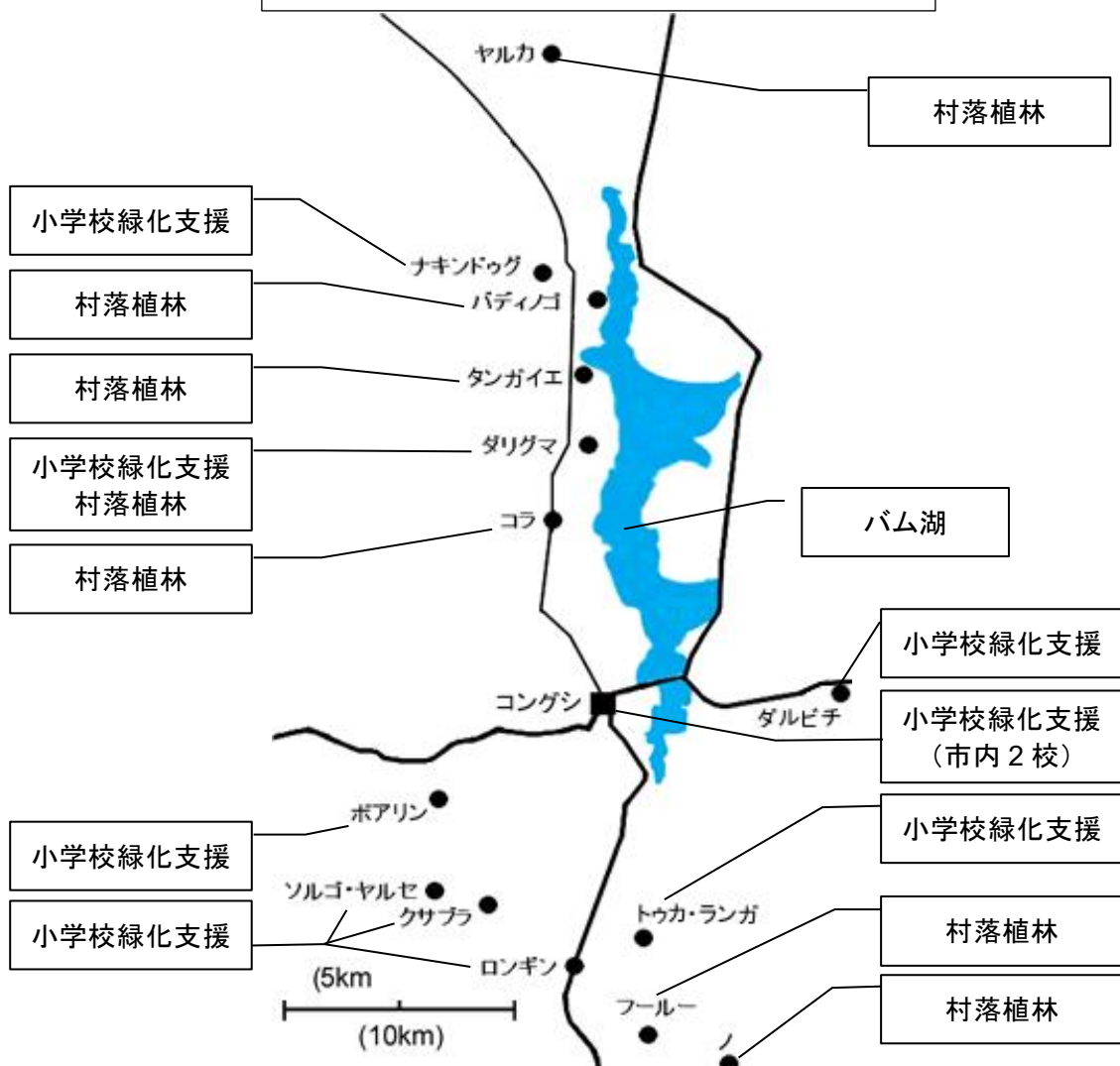
緑のサヘル 事務局長 菅川拓也

ブルキナファソの活動地域図

<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



2月、現地協力団体である AJPEE（環境畜産保全青年協会）で総会が開かれ、前号で代表代行としてご紹介したアデリン・サワドゴさんが事務局長に就任、引き続き団体の窓口を務めることになりました。今回はアデリンさんからの現状報告とメッセージをお届けします。

アデリンさんからの報告

治安の悪化

こちらは今、乾季で気温は 40℃に迫ろうとしています。治安の悪化については既にお伝えしましたが、そのせいで昨年は多くのものを失ってしまいました。せっかく降雨に恵まれたのにも関わらず土地を離れる住民が多く、最終的には不作になってしまいました。例年 10 月に行っていた小学校での補植、12 月に実施していた村落植林も諦めざるを得ませんでした。

避難民の発生

近隣地域で武装集団による襲撃があって以来、次の標的はコングシ地域では？という憶測が流れ、いくつかの村の住民は地域の中心であるコングシ市に避難しています。他の地域から逃れて来た避難民と合わせると、その数は 24,000 人を越えています。これらの人々は、市内の 20 か所に分かれ、避難生活を送っています。

襲撃の脅威に晒され、故郷を離れた避難民は本当に無力で、その生活は困窮そのものです。私たちの聞き取りでは至急必要なものとして、居住施設、食料、医療サービス、生活資金、仕事が順に挙げられました。また、避難民の 6 割以上が子供たちなので、学業の支援も必要とされています。



生活物資の配布。(2023 年:コングシ市)

物価の高騰

昨年の不作、生産力の低下、急激な人口増加のせいで、諸物価が高騰しています。特に食糧が顕著で、以前は 46 円/kg 程度だった米が、現在は 90 円/kg まで値を上げています。また、ガソリンも軍を支援するために 130 円/ℓ から 170 円/ℓ になり、石油は一時 400 円/ℓ まで値上げしましたが、現在は 160 円/ℓ に落ち着いています。

メッセージ

日々悪化する治安状況と私たちの生活をご心配いただき、ありがとうございます。先日からコングシ地域でも「祖国防衛ボランティア」の募集が始まりました。今、私たちはこの民間志願兵の皆さんが平和をもたらしてくれることを信じ、その安全を祈っています。私たちには希望と勇気と意志があり、間もなくこの国に平穏を取り戻せると確信しています。何事にも始まりと終わりがあります。平和が戻って来るその日まで、私たち一人ひとりが出来ることを続けて行かなければなりません。皆が安心して暮らせる、平和な国ほど美しいものではありません。



2023 年の活動について

現地の状況を考えると、活動の実施には最大限の慎重を要します。「緑のサヘル」は現地協力団体 AJPEE と共に、今年度の可能性について話し合いを重ねて来ました。その結果、まず合意したのは「どんな形でも住民支援を続ける」ということで、その内容と方法については住民の要望、AJPEE の人的キャパシティと安全判断、「緑のサヘル」の資金的キャパシティを考慮して決定するということになりました。以下がその詳細です。

● 避難民支援 ●

住民と避難民、行政と AJPEE からの要望です。テントやランプ、また燃料や石炭等、必要なものは多いのですが、まずは基本的な食糧の配布から着手したいと思います。避難生活でも調理しやすい米（4,500 円／1 袋：50kg）、食用油（6,600 円／1 箱：50 本）、トウモロコシ（3,000 円／1 袋：50kg）を予定しています。ただ、避難民支援はその性質上、計画立てとその完遂に対して確約出来ない場合が多く、助成団体への申請は難しいと思われます。従って、この活動に関しては支援者の皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。



● 小学校緑化支援 ●

地域の未来を見据え、子供たちへの啓蒙を途絶えさせるべきではないとの住民側からの要望によるものです。計画では最大限に安全を確保するため、これまで継続して来た村落部の小学校への支援を終了し、対象を全てコングシ市内の小学校とします。既に教育局との学校選定は終了しており、10 校に対して用具と苗木の配布、普及員による指導を行ないます。避難民の子供たちも編入するので、波及効果はこれまで以上に大きいと考えています。ただし予算の関係から、助成金がいただけた場合のみ実施、いただけなかった場合は見送りとなります。

● 生活林造成 ●

環境局と AJPEE からの要望です。これまで村落で実施していた植林を終了し、コングシ市内の地区やコミュニティで行なう植林です。木陰作りや防風・防砂等による生活環境の改善、建材や薪材、果樹の生産、またその販売による収入向上を目的としています。避難生活が長期にわたった場合の備えにもなるので重要度が高い活動ですが、相応の水場が必要なことから、現在 AJPEE と環境局が実施候補を検討中です。小学校緑化支援と同様、助成金をいただけた場合のみ実施が可能で、見送りになる可能性もあります。

国内活動



今期は「2023 年カレンダー」と「ニュースレターNo.92」の発送で忙しい日々が続きました。その中で、岩手県内の小・中学校の生徒や保護者の皆さん、また年齢も経歴も様々な会員からなる「日本橋文化交流会」の皆さん等、多くの方々にお話を聞いていただくことが出来ました。

< 国内の主な活動一覧 >

2022 年				
11 月	1 日(火)	「2023 年オリジナルカレンダー」発送開始		—
	7 日(月)	一関市立 東山中学校	(2 年生 47 名)	講演
	8 日(火)	盛岡市立 仙北中学校	(2 年生 234 名)	講演
	9 日(水)	滝沢市立 滝沢東小学校	(5 年生 55 名)	講演
	11 日(金)	盛岡市立 見前南中学校	(2 年生 133 名)	講演
	13 日(日)	盛岡支部 報告会	(一般・教員 8 名)	報告・質疑
	14 日(月)	盛岡市立 黒石野中学校	(2 年生 135 名)	講演
	16 日(水)	盛岡市立 下橋中学校		講演
		「エコシンポジウム」(1~3 年生 220 名)		講評
12 月	7 日(水)	「ニュースレター No.92」 発送開始		—
	8 日(木)	日本橋文化交流会	(交流会々員 12 名)	講演
2023 年				
1 月	4 日(水)	仕事始め。カレンダーの発送等		—

2022年度の岩手講演

毎年当団体が実施している岩手県の教育機関における講演は、事務局長の菅川（同県出身）が 1996 年に教師の皆さんの依頼を受けて始められました。その多くが授業の一環として行なわれており、これまでの実施回数は延べ 300 回を越えています。

2022 年は 5 中学校・1 小学校で行なわれ、生徒と教師、保護者等、計 850 名以上の方々が、現地の状況や「緑のサヘル」の活動について学びました。また、最終日の下橋中学校の「エコシンポジウム」では、現地の森林や家畜、穏やかな暮らしの様子を通じて、環境と生活の繋がりの大切さが説明されました。

2022 年の岩手講演は県紙「岩手日報」にも掲載され（11/10、12/6）、講演の様子や長年にわたる取り組みが紹介されています。



全校生徒が環境への取り組みについて話し合う、下橋中学校のエコシンポジウム。

「緑のサヘル」は、皆様からの講演依頼をお待ちしています。
講演データの貸出も承っていますので、ぜひお気軽に事務局までお問合せ下さい。



前頁でお伝えした岩手講演の後、各校の皆さんから感想文が届きました。その多くに現地や世界、また未来に対する思いが語られており、この取り組みの大切さを改めて実感した次第です。抜粋になりますが、以下にその一部をご紹介します。

「緑のサヘル」の講演を聞いて

- 現地のリアルな姿を見ると、TV のニュースよりよっぽど衝撃を受けると同時に、自分がまだまだ何も知らないんだと分かりました。自分から率先して「知る」ことを実践し、小さくてもできることを探して行きたいと思います。
- 今までには砂漠化の深刻さを甘くみていましたが、講演をお聞きして実態を知ることが出来ました。同世代の子が頑張って生きようとしていて、涙があふれ出そうでした。命の大切さや、自分がどれだけ恵まれているのかを気付けるお話をありがとうございました。
- 現地の人たちの生活を知り、日本で当たり前に行っていることがすごく特別に感じました。それをちゃんと実感しなければいけないと思いました。一日一日を大事に過ごしていきたいと思ったし、当り前のことを当り前と捉えず、感謝しながら生活していきたいです。
- 講演を聞いて、食べ物や飲み物を粗末にしていた自分を、ひどく後悔しました。深刻な砂漠化に立ち向かい、一つ一つ改善していく皆さんの姿に、私も勇気をもらえたような気がします。私も自分にできることを探していきたいです。現地の人々の顔に、早く笑顔が見られる日が来ることを願っています。
- 一人が動いただけでは解決しませんが、一人が動かないことには何も始まらないので、現状が変わる変わらないに関係なく、行動することが大事なんだと思いました。環境問題は実感がなさまま進んで、気が付いた時には手遅れということが多く知ったので、そうならないためにも「まだ大丈夫」と思わず、危機感をもって取り組もうと思います。
- 困っている人たちのために行動をおこすためには、まずその人たちの状況を知る事が大切だと分かりました。何事も「自分だったら…」と考えるようにしたいです。普段、何気なくしている募金もしている理由を知ることや、募金の他にできる事を探していきたいです。
- 「緑のサヘル」が、単に「木を植える」「水・食べ物を与える」だけでなく、飽くまでも現地の人々の活動を支援し、この先そこに住んでいる人達だけでも良い環境をつくって行けるようにしているのが、素晴らしいと思いました。貧困が進んでいる国に対して、余裕のある国が支援して行って、全世界の人々がお腹いっぱいを感じられるような地球になってほしいです。

皆さん、思いを込めたご感想、本当にありがとうございました！

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 会員の皆さま 】

野々山富雄／米多喜久男／上野幸子／立花美江／安田喜代美／金井晶子
村井智恵子／高橋聖子／田辺諄児／青山初穂／福川・小林佐代／鈴木久美子
宮田春夫／杉本和／加藤和雄／守脇竜彦／浅輪哲司／佐賀明子／柏原竜一
本所稚佳江／宇野泰子／後藤琢雄／梅田暢子／佐々木順平／榎本雅子
木嶋清江／木嶋美加子／和田隆資／石本雄大／菅沼浩敏／援助修道会

他 匿名をご希望の方 1 名

【 ご寄付を頂きました 】

増岡一樹／米多喜久男／畑野めぐみ／住友俊子／和田愛子／太田宜子
矢野友一郎／小林千恵子／葛原睦子／土蔵愛子／田中京子／宮本秀子
石毛弘／山野上素充／井上るみ子／田辺諄児／松田曜子／高橋菜々子
中西利果子／池亀昭子／星和男／勝間朋子／山本明子／吉田誠男／戎綾子
宮田春夫／高木瑞穂／加藤治郎／三宅孝治／太田弘子／岩田彰亮／澄田静
須藤さい／佐藤京子／佐藤郁子／伊藤敬子／松本恵子／鈴木潤／森田康子
宮川頌啓／高木眞味子／武知ハルミ／矢部弥生／大和由利子／松岡亜湖
竹内誠也／紫竹チカエ／中久保慎一／徳永由希子／國岡裕子／伊藤雄高
高倍宣義／森田妃佐子／桜井より子／梶野修平／中川昭一／浅井徹子
武藤彰子／高橋昭／城佳秀／氏岡治代／田村典子／竹中和子／莊田知美
木嶋清江／木嶋美加子／野々山富雄／西村豊子／佐藤裕美／大原陽子
援助修道会／岩手プロジェクト／稽古場風 堀籠貴子
個別教育フォレスト 安多秀司

他 匿名をご希望の方 3 名

【 古本チャリティ募金を通じてご寄付を頂きました 】

吉田りつ子／松本仁一

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

岡崎拓／大池良平／佐々木順平

上記は 2022 年 11 月 1 日から 2023 年 1 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(株)ブギ／国際ソロプチミスト大阪-中央
(特活)環境アリーナ研究機構／(一社)環境メディアフォーラム
LIFULL ソーシャルファンディング／アフリカ料理トライブス
ソフトバンクつながる募金／(特活)国際協力 NGO センター

「緑のサヘル」からお知らせ

ご支援をお願いします！

● 会員を募集しています！



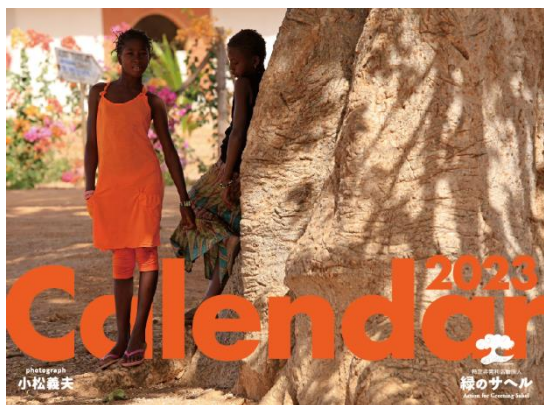
「緑のサヘル」を恒常的に支えて下さいますか？
年会費は、団体賛助会員 50,000 円、個人賛助会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。
会員になって下さった方には会員番号を通知し、当団体のニュースレターと年次報告をお送りします。

● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでもOKです。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分け等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大事に大事に使わせていただきます。

緑のサヘル カレンダー



西アフリカの自然や風景、人々の暮らしが身近に感じられると大好評の「2023 年 緑のサヘル オリジナル・カレンダー」、若干ですが在庫があります。まだご注文いただけますので、ご希望の方は事務局までご連絡を下さい。

【 もくじ 】

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動 |
| 2・・・ブルキナファソ活動地図 | 6・・・事務局より |
| 3・・・ブルキナファソから 1 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・ブルキナファソから 2 | 8・・・お知らせ |

● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内での活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。
書き損じハガキは、1 枚 5 円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

2023 年 4 月 1 日より、交換手数料が 1 枚 5 円から 10 円になります。(100 枚以上の場合)

< 編集後記 >

刻一刻と悪化して行くブルキナファソの治安。つい数年前までは想像もしなかった、悪夢のような状況です。今、世界中のあちこちで闘いが繰り広げられ、多くの人々が犠牲になっています。「皆が安心して暮らせる、平和な国ほど美しいものはありません」というアデリンさんの言葉が胸に沁みます。(事務局)

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.93

編集 緑のサヘル 東京事務局 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 N A S ビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041